

G22-1-2 資料

日本工学会CPD協議会
平成 21 年度第 2 回運営会議議事録(案)

日時：平成 21 年 11 月 30 日(月) 13:30~15:30

場所：日本工学会 事務所 (港区芝 5-26-20 建築会館 6 階)

出席者(順不同、敬称略)

委員長 桑原 洋

委員 川島 一彦

委員 関田 真澄

委員 橋谷 元由

委員 持田 侑宏

事務局 四戸 靖郷

配布資料：

SC09-2-1 平成 21 年度第 1 回議事録

SC09-2-2 9 月 24 日付経産省提出「社会人教育の件について」ECE-WG 資料

SC09-2-3 ナノテク製造中核人材の養成プログラム

SC09-2-4 CPD 活動 (桑原洋レジュメ)

SC09-2-5 日本工学会 CPD ガイドライン(案)

議 事：

議事に先立ち、桑原委員長から挨拶が行われた。

この後、議題に沿って活発な議論が展開されたので、主な論旨を要約して記録した。

1. CPD-WG の活動報告および今後の活動

- ① 今回の CPD ガイドラインのパブコメ募集が工学会のHPに掲載された。会員各学協会に、HPに掲載したことの周知と意見募集を改めてメールで一斉に行う旨、事務局から報告があった。
- ② 数年前から“ポータルサイト”の検討が行われているが、あまり進展していない。まずは、日本工学会のHPのCPDページから各学協会のHP CPD ページに飛べればよいのでは、CPDとしてリンクされていて、すぐ引けるシステムが求められる。年度目標を決めてCPD検索システムを構築していきたい。
- ③ CPD 関係サイトの利用対象をどう考えるか、会員対象なのか一般対象なのか。修士課程の学生もCPDを始めたらうが、主体は技術者であろう。一般エンジニア対象に、掲示されたキーワードから該当する学協会のプログラムにとべるように今年度中にやりた

い。プログラムの更新やメンテナンスは各学協会にやっていただくことになるだろう。

- ④ CPD 対象プログラムは工学会関係全学協会範囲でおそらく100件/月位はある。ただし、研修会や講演会、研究発表会など、単発的なものが多く、CPD 教育としてカリキュラムを立てた継続的なものは少ない。一定のプログラムに基づき、毎年や半年ごとに繰り返す CPD 講座を実施しているところもある。
- ⑤ 能力レベルを規定して、段階を設けて初級、中級というように CPD 教育を目指すことも必要である。
- ⑥ 各学協会に、エンジニアとして何が必要か検討してもらい、対象者やレベルやプログラムも、その定義や名称も整理していく必要がある。ベテランもいいが、今の状況では CPD として考えれば、まだ初期段階だ。各学会でも若手に CPD を受けさせていきたい。
- ⑦ 企業にとっては、何を勉強しているかが関心事であり、評価の対象でもある。採用しようとする企業が CPD 履修を求める傾向もある。

2. ECE-WG の活動報告および今後の活動

- ① ECE-WG では、広範な産業界からの期待が大きいナノテクを取り上げ「ナノテクノロジーECE プログラム」について、専門家の横山直樹氏ほか2名に特別委員として参加いただき検討を進めているとの報告があった。
- ② 経産省が“つくば”で進めているナノテク人材育成プログラムに組み込んでいただくよう、同省の研究開発課の土井課長に相談しており、つくばの研修に工学会が協賛などの形で乗り、終了認定を出すようにしたい。来年も8月から10月まで行われるので、近いうちに工学会として働きかけていきたい。
分野で近いのは、応用物理学会なので、専門家に参加していただき、具体的検討や調整を図っていきたい。
- ③ ものづくりは外国も追いついてくるが、ナノテクを活用する技術は100%日本のである。利用技術の研究開発は工学会の得意分野だ。ナノテク応用エンジニアリングも大切だ。将来の方向性や可能性を研究し、ナノテクエンジニアを育成していくことが求められる。日本工学会が参加するためには、川島先生の CEC プログラムを生かす必要があり、工学会の貢献が光ることになる。
- ④ 日本工学会は、技術者教育に力をいれ、CPD を含め、大変熱心にやっていると評価されて行くだろう。つくばのプロジェクトはいずれ民間が受けていくことになると思うが、教育のメカニズムを受けて継続させていくのは大変なので、まず産業界が受けて、工学会と共同で実施して方法がある。来年度に、さらに詰めて、いい方向にもっていきたい。

3. CPD 講演会の結果報告

(1) CPD 講演会開催報告

日時：平成21年10月5日(月)13:10～17:00（終了後に交流会：18:00まで）

会場：建築会館ホール

参加人数：会員学協会および一般含め 57 名、交流会 28 名

桑原 洋（日本工学会副会長・同 CPD 協議会会長）の挨拶のあと、以下の発表や事例紹介が行われ、会場ロビーでは 7 団体によるパネル展示が行われた。司会は橋谷元由（日本工学会理事）が務めた。

① 発表・事例紹介

- ・日本工学会 CPD ガイドライン 関田 真澄（CPD WG 主査、(社)冷凍・空調工学会）
- ・CPD 活動紹介(1) 片山 功三（CPD WG 委員、(社)土木学会）
- ・CPD 活動紹介(2) 「化学工学会における CPD」 浅野健治（(社)化学工学会継続教育委員長、日本ゼオン（株））
- ・ECE プログラムの概要とその目標 川島 一彦（ECE WG 主査、東京工業大学）
- ・日本工学会 CPD 活動への期待 永田 一良（日本技術士会 前 CPD 統括小委員長）
- ・ECE プログラムの例 持田 侑宏（ECE WG 委員、フランステレコム(株)）

② CPD 講演会における質疑

工学会では、資格制度をどう考えていくのかとの質問があった。客観的な評価を与えるということは大事なことであるが、趣旨や内容など、企業に理解してもらうことだ。土木学会が行っているキャリアパスなどの例もある。講演会は毎年 1 回継続して開催していきたい。

(2) CPD 講演会開催の収支報告

本年 10 月 5 日に、建築会館ホールで開催された、日本工学会 CPD 講演会の収支決算概要の報告が 10 月理事会で報告し承認されたとして事務局から行われた。

収支決算：

	科 目	予 算	決 算	差 異	注 記
収入	参加費	30,000	28,000	2,000	収支不足分は、8 月 度理事会（書面審 議）で承認を得たの で、一般会計の講演 会事業支出（予算 790,000 円）から支 出した。
	収入合計	30,000	28,000	2,000	
支出	会場費	178,500	257,016	△78,495	
	資料作成費	100,000	58,600	41,400	
	交流会費用	100,000	34,792	65,208	
	アルバイト費	5,000	5,000	0	
	支出合計	383,500	355,597	28,113	
	収支差額	△353,500	△327,597	△26,113	

以上